

シニア松塚将棋クラブ NO225

令和5年1月13日金1時30分～4時

次の例会は 1月19日木、1月26日木です

様

○ スマホ又はPCをお持ちの方は松塚将棋で検索してみてください。するとシニア松塚将棋クラブが出て来ます。これはシニア松塚のホームページを立ち上げた松本様のおかげです。その新しい例会ををクリックすれば、新しい会報が現れます。その詰将棋問題図を拡大して見れば例会を欠席されても問題の解答は可能です。試してください。

○ 前回は寒く、まだ正月ということもあり例会参加者が少なく会報が届かず、NO224 詰将棋問題を解答されたのは、設楽竜王と秋山八段の2名だけでした。その2名が相変わらず強くピタリ正解でした。

NO224 詰将棋解答

- 第1問 ▲1五飛 △同角 ▲2四桂 △同角▲2一銀不成△2三玉
▲3二馬 △1三玉▲2五桂
- 第2問 ▲2三銀不成△同玉▲3二角打 △2四玉▲3四飛△2五玉
▲1五金 △同玉▲1四飛

佐藤名人(当時)との第58期名人戦第7局

私の一手

丸山忠久九段は名人戦で最も印象に残る一手に、佐藤康光名人に挑戦した第58期名人戦第7局(2000年6月)で、5六にいた角を逃がした▲6五角(79手目)＝盤面参照＝を挙げた。

名人初挑戦の七番勝負は、緒戦



勝ち負けよりも「指したい手」

2連勝した後に3連敗を喫し、第6局で連敗を止めて最終局にこぎ着けた。「7局目まで行ってプレッシャーもなくなってきたので、指したい手を指そう」と臨んだ。

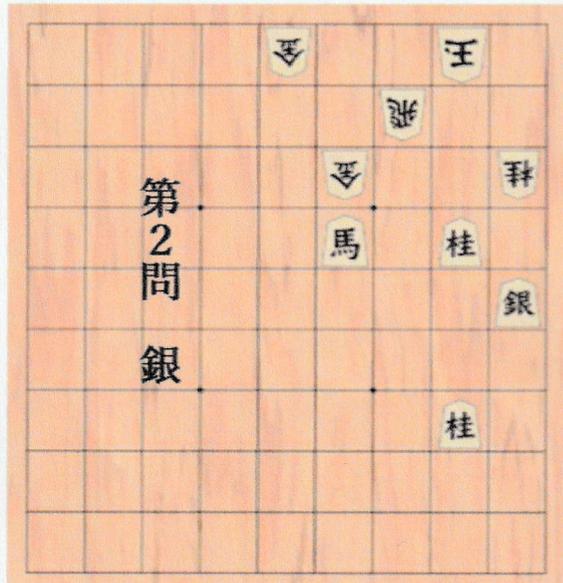
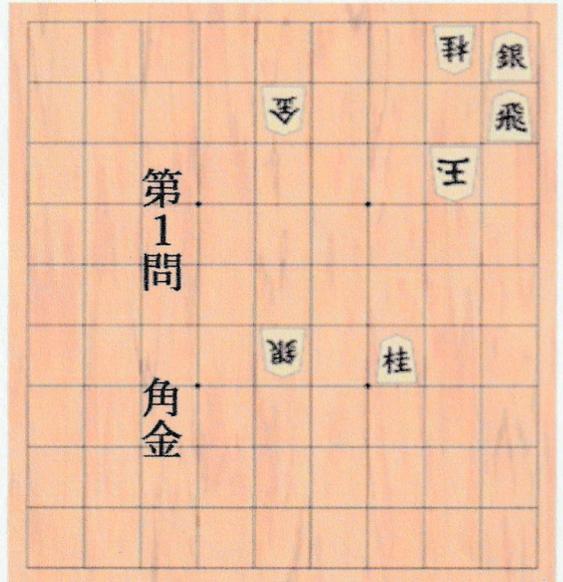
角換わりの戦型から先手の丸山九段が先に敵陣を崩した。そのまま優勢に立てるかが焦点で、選択肢の多い局面だった。47分の長考で飛車を見捨てて角の活用を図る手を選んだ。「▲4五角や▲4五飛も考えられる選択の分かれ道。どれが最善か分からないが、自分の指したい手がこの手だった」

佐藤名人に飛車を取らせる間に▲2一角成と成ってから自陣に引きつけ、攻守の拠点として最後まで活躍する駒になった。

「どれが最善かは分からないですが、そういう時こそ指したい手を指すことが大事で、最終局なのでその基本に立ち返りました。指したい手を指さないで勝つのも違う。勝ち負けよりも、表現力とか芸術性の類いのものです」。自分らしい手を指して勝ってこそ価値がある。勝負師らしいこだわりを込めた一手だった。

詰将棋問題

2問正解を1点に



詰将棋正解者番付

順位	名前	段位	正解数
1	秋山	八段	18
2	設楽	竜王・八段	10
3	青田	七段	25
4	玉置	六段	21
5	柳原	二冠・五段	25
6	花田	六段	3
7	森田	二段	7
8	中		15
9	上野		7
10	長谷		1